

どうしてる？子どもの育ちを支えるための保護者との連携

特別支援教育の現場では、連絡帳や送り迎えのときなど保護者の方々とやり取りをすることが多くあると思います。そして、目の前の子どもの育ちを分かち合う瞬間は掛けがえのないものであると思います。そこで、今回は、保護者の方との連携について、みなさんと一緒に考えました。

前半では、連携する上で担任と保護者の方が共通理解しておくべきポイントやペアレントトレーニングの考え方を活用した保護者との連携について学びました。担任と保護者の共通理解のポイントとしては、学校を卒業した後に必要な力を見据えて、学校で身に付けておくべきこと、「できること」より「やりたくなること」を目指す（「歯磨きができるけど歯磨きが嫌いな子」ではなく「歯磨きがしたい子」、「就労できる子」よりも「就労したい子」を育てる）などがありました。

学校を卒業した後

- 新しいスキルを（効率よく）おぼえる力
 - 自分で動き出すきっかけを見つける、作れる、利用できる
- 働く目的、生きがい
- うまく行かないときに立ち直る力
- 時と場所にに応じて助けを求める力

愛知県心身障害者コロニー中央病院 吉川徹先生
H30 愛知県発達障害地域包括支援研修より

学校時代は？

- どうやったらうまく覚えられるのかを探る
 - どうやったらうまく動きだせるのかを探る
- 受け取れる報酬の種類を増やしていく
- 「こだわり」をだんだん「趣味」にしてい
- うまくいっていないときに気づく力
 - 決められた人に助けを求めることができる
 - うまくいっていないときに立ち直る方法を探る

愛知県心身障害者コロニー中央病院 吉川徹先生
H30 愛知県発達障害地域包括支援研修より

「自立できる」を目指さない

- 目標にするのは「自立したい」
 - 自由な選択の価値を知ること
 - 自分で決めたい
 - 自分でやりたい

「選択の機会」が自立への意思に繋がる

愛知県心身障害者コロニー中央病院 吉川徹先生
H30 愛知県発達障害地域包括支援研修より

依存先を増やしていくこと

- 自立は依存から始まる ◎熊谷晋一郎
 - 困ったときに、自分から助けを求められますか？
 - SOSを出せない人には見守り（＝監視）が必要

愛知県心身障害者コロニー中央病院 吉川徹先生
H30 愛知県発達障害地域包括支援研修より

後半では、参加された先生方が、悩んでいることを取り上げ、たくさんのご意見をいただきながら、具体的なよりよい支援の在り方について話し合いました。

「①保護者がお子さんに対して担任にしてほしい課題と担任がさせたい課題が異なる場合、どうするか？」「②保護者がお子さんの障害を受け入れることができない場合、どうするか？」「③保護者が通常の学級との交流を望んでいるが、お子さん自身が交流に対して前向きではない場合どうするか？」などの悩みが出ました。①については、「保護者のパートナーとなってお子さんを育てる関係作りが大切」「仲間として共に育てたいという思いを共有する」「どのようなねらいをもっているかをしっかり伝える」といったご意見をいただきました。（文責 藤が丘小学校 中室匡雄）



今回は、12月6日(木)18:30～「どうしてる？ 新入生を迎えるにあたって<小1と中1>」植田小学校です♪ お互いの知識や経験、気づきを共有し、学び合しましょう！